【令和７年度決算】第三セクター経営状況　概要資料

資料１－１

No.	法人名	法人概要等	R7事業実績	財務諸表			R6決算		R7決算		前期比	市による財政・金融支援（円）	財務状況の概要等	経営健全化の検討・方針策定の必要性
				項目	指標	理想値		判定		判定				
1	公益財団法人 石巻地域高等教育事業団	【法人概要】 石巻専修大学を中心とした高等教育の振興、地域研究への助成、奨学金貸与等を通じ、地域の教育・学術振興を支援する。 【事業内容】 ・石巻専修大学開放講座事業補助金（補助金15万円上限） ・地域研究助成事業（助成金100万円上限） ・奨学金貸与事業 ・石巻専修大学学生顕彰事業、懇談会等	地域研究助成事業において助成対象が2件から3件に増加した一方、石巻専修大学開放講座の受講者数は71人から55人へ減少した。 また、奨学金貸与額は1,200千円から1,100千円へ減少し、石巻専修大学と圏域高等学校との懇談会は日程調整が整わず令和８年度へ延期された。 学生顕彰事業については、表彰対象及び事業費が前年度を下回った。	貸借対照表 （安全性）	自己資本比率（%）	30%以上	99.9	○	99.9	○	0.0	0	自己資本比率、流動比率及び固定比率のいずれも良好な水準にあり、財務基盤は概ね安定している。 収益面では未収債権の整理に伴う貸倒損失の計上等により総資産経常利益率は▲1.3%となっているが、公益目的事業の実施に伴うものであり、直ちに経営上の問題があるものではない。 営業活動CFはプラスを維持しており、借入金に依存した運営も行っていないことから、資金繰りに大きな問題はないものと考えられる。 【市が期待する役割等】 設立目的に沿って適切に事業を実施しており、本市の教育・学術振興に一定の役割を果たしているものと評価できる。 今後も、公益目的事業の充実及び安定した法人運営に努められたい。	無
					流動比率（%）	100%以上	5,832.9	○	4,681.0	○	▲ 1,151.9			
					固定比率（%）	100%以下	99.3	○	99.3	○	0.0			
				損益計算書 （収益性）	営業利益率（%）	5%以上	－	－	－	－	－			
					総資産経常利益率（%）	5%以上	▲ 0.9	×	▲ 1.3	×	▲ 0.4			
					総資産回転率（回）	1.0回以上	－	－	－	－	－			
				CF計算書 （資金の流れ）	営業活動CF（円）	プラス	2,788,733	○	1,155,256	○	▲ 1,633,477			
					投資活動CF（円）	－	▲ 2,960,000	－	▲ 1,190,000	－	1,770,000			
					財務活動CF（円）	－	0	－	0	－	0			
					分析パターン	－	－	※④健全型に近い	－	※④健全型に近い	－			
2	株式会社 かほく・上品の郷	【法人概要】 道の駅「上品の郷」を拠点に、直売所、温泉保養施設、飲食・物販等の運営を行い、地域産品の販売促進や交流人口の拡大に寄与する。 【事業内容】 ・道の駅「上品の郷」の維持管理及び運営	開業20周年を契機とした創業祭や感謝祭の開催、各種媒体による情報発信等により、施設利用者数は前年度比1,086人増の638,242人となり、総販売額も直売所及びヤマザキショップの売上増により、前年度比23,886千円増の1,082,720千円となった。 一方、米不足や水不足による農産物への影響や熊出没による観光客減少、物価高騰、電気料金及びキャッシュレス決済手数料等の費用増加により、経常利益は前年度を下回った。	貸借対照表 （安全性）	自己資本比率（%）	30%以上	52.2	○	49.3	○	▲ 2.9	委託料： 16,000,000	自己資本比率、流動比率及び固定比率のいずれも良好な水準にあり、財務基盤は概ね安定している。 収益面では、営業利益率は▲0.4%だが、前年度から改善している。 また、総資産経常利益率は0.7%と前年度を下回っているが、売上高は増加し、経常利益及び当期純利益も黒字を確保していることから、直ちに経営上の問題があるものではない。 営業活動CFはプラスに転じており、資金収支に改善が見られる一方、施設設備の更新等に伴い投資活動CFが減少していることから、今後の資金繰りを注視する必要がある。 【市が期待する役割等】 国際的な原材料価格や原油価格の高騰が続くことが見込まれるが、道路利用者や地域住民等の交流の拠点施設として、利用しやすく、より一層親しまれるよう、サービスの向上及び運営の効率化に努めていくことを期待する。	無
					流動比率（%）	100%以上	209.6	○	197.5	○	▲ 12.1			
					固定比率（%）	100%以下	23.1	○	28.9	○	5.8			
				損益計算書 （収益性）	営業利益率（%）	5%以上	▲ 0.6	×	▲ 0.4	×	0.2			
					総資産経常利益率（%）	5%以上	1.2	×	0.7	×	▲ 0.5			
					総資産回転率（回）	1.0回以上	1.8	○	1.8	○	0.0			
				CF計算書 （資金の流れ）	営業活動CF（円）	プラス	▲ 6,952,178	×	8,626,566	○	15,578,744			
					投資活動CF（円）	－	▲ 8,446,113	－	▲ 14,658,808	－	▲ 6,212,695			
					財務活動CF（円）	－	▲ 1,190,000	－	0	－	1,190,000			
					分析パターン	－	－	⑧大幅見直し型	－	※④健全型に近い	－			
3	一般社団法人 おしかパブリックサービス	【法人概要】 牡鹿地区を中心に、廃棄物収集等の公共サービスを担い、地域住民の生活環境の維持に関わる。 【事業内容】 ・牡鹿地区ごみ収集運搬業務、牡鹿地区市民バス運行業務、牡鹿交流センター受付・清掃業務等、牡鹿地区内公共施設清掃、除草業務等	契約状況については、牡鹿交流センター水中運動教室業務、市立牡鹿病院緑化管理業務及び事業系一般廃棄物処分業務が減少したことなどにより、契約額全体では前年度比1,371千円減の131,075千円となった。 一方、令和７年度は新たに網地島県道除草業務を受託したほか、おしか御番所公園除草作業業務など一部業務では受託額が増加している。	貸借対照表 （安全性）	自己資本比率（%）	30%以上	64.6	○	62.6	○	▲ 2.0	委託料： 115,794,690	自己資本比率、流動比率及び固定比率のいずれも良好な水準にあり、財務基盤は概ね安定している。 収益面では、事業収益は前年度を下回ったものの、経費節減や効率的な事業運営により経常費用も減少し、当期経常増減額は前年度を上回っている。 総資産経常利益率は2.6%と理想値を下回るものの、一定の利益を確保しており、安定的な事業運営が図られているものと考えられる。 営業活動CFは前年度を下回ったもののプラスを維持している。収集車両の更新等により現金預金は減少しているが、事業継続に必要な投資であり、資金繰りに直ちに大きな問題はない。 【市が期待する役割等】 人口減少に伴う事業需要の縮小や労働力不足などが見込まれることから、引き続き効率的な事業運営と経営基盤の強化に努めるとともに、地域住民の生活環境の維持向上に資する公共サービスを安定的に提供されることを期待する。	無
					流動比率（%）	100%以上	315.1	○	272.1	○	▲ 43.0			
					固定比率（%）	100%以下	0.4	○	52.0	○	51.6			
				損益計算書 （収益性）	営業利益率（%）	5%以上	－	－	－	－	－			
					総資産経常利益率（%）	5%以上	2.6	×	2.6	×	0.0			
					総資産回転率（回）	1.0回以上	－	－	－	－	－			
				CF計算書 （資金の流れ）	営業活動CF（円）	プラス	8,310,607	○	3,225,682	○	▲ 5,084,925			
					投資活動CF（円）	－	0	－	▲ 13,530,614	－	▲ 13,530,614			
					財務活動CF（円）	－	▲ 1,500,000	－	2,640,000	－	4,140,000			
					分析パターン	－	－	※④健全型に近い	－	③積極型	－			

【令和７年度決算】第三セクター経営状況　概要資料

資料１－１

No.	法人名	法人概要等	R7事業実績	財務諸表			R6決算		R7決算		前期比	市による財政・金融支援（円）	財務状況の概要等	経営健全化の検討・方針策定の必要性
				項目	指標	理想値		判定		判定				
4	公益財団法人 慶長遣欧使節船協会	【法人概要】 慶長使節船ミュージアム等の文化施設運営を通じ、慶長遣欧使節の歴史・文化の継承、教育普及、観光振興に取り組む。 【事業内容】 ・慶長使節船ミュージアムの管理運営 ・サン・ファン・バウティスタパークの管理運営 ・慶長遣欧使節及び海洋に関する調査研究等	リニューアルオープン後の本格運営年度として、慶長使節船ミュージアム及びサン・ファン・バウティスタパークの管理運営を行い、企画展示、講演会、体験学習、誘客イベント等を実施した。 慶長使節船ミュージアムの年間入館者数は28,713人、サン・ファン・バウティスタパーク来園者数は63,866人となり、ミュージアム入館料も前年度比4,687千円増の8,205千円となった。 年間入館者数、入館料ともに目標には届かなかったものの、歴史文化の普及啓発と誘客促進が図られた。	貸借対照表 （安全性）	自己資本比率（%）	30%以上	97.4	○	98.2	○	0.8	委託料： 40,000,000	自己資本比率、流動比率及び固定比率のいずれも良好な水準にあり、財務基盤は概ね安定している。 収益面では、リニューアルオープン後の通年開館や各種事業の実施により、入館料収入等は増加している。 一方、総資産経常利益率は▲0.4%とマイナスとなっており、今後も来館者の増加及び収支改善に向けた取組が必要である。 営業活動CFが依然としてマイナスであり、現金及び現金同等物が減少している。投資有価証券等の評価額も減少していることから、引き続き資金収支及び保有資産の状況を注視する必要がある。 【市が期待する役割等】 市民が参加しやすい企画・イベント等の創意工夫を重ね、入館者数の増加及び交流人口の拡大につながるよう期待する。	無
					流動比率（%）	100%以上	394.2	○	536.6	○	142.4			
					固定比率（%）	100%以下	92.2	○	92.0	○	▲ 0.2			
				損益計算書 （収益性）	営業利益率（%）	5%以上	－	－	－	－	－			
					総資産経常利益率（%）	5%以上	▲ 0.2	×	▲ 0.4	×	▲ 0.2			
					総資産回転率（回）	1.0回以上	－	－	－	－	－			
				CF計算書 （資金の流れ）	営業活動CF（円）	プラス	▲ 41,336,537	×	▲ 31,790,199	×	9,546,338			
					投資活動CF（円）	－	51,800,431	－	▲ 539,290	－	▲ 52,339,721			
					財務活動CF（円）	－	0	－	0	－	0			
					分析パターン	－	－	※⑤救済型、 ⑥リストラ型に近い	－	※⑧大幅見直し型 に近い	－			
5	一般社団法人 石巻地区勤労者福祉サービスセンター	【法人概要】 石巻広域圏の中小企業等で働く勤労者を対象に、福利厚生、共済給付、健康管理、余暇活動支援等のサービスを提供する。 【事業内容】 ・中小企業勤労者の在職中の生活安定、健康増進、老後生活の安定、財産形成、自己啓発及び余暇活動等に係る事業	物価上昇や人手不足等の影響により会員事業所の退会が見られ、会員数は期首2,322人から期末2,266人となり、56人減少した。 また、会員事業所数も238事業所から231事業所となり、7事業所減少した。 一方で、共済給付、健康管理、自己啓発、ツアー、各種割引等の福利厚生事業を継続して実施し、利用人数及び支出額は全体として概ね前年度並みで推移した。 催物事業では一部事業が申込人数不足により中止となったものの、割引事業やツアー事業は安定した利用があった。	貸借対照表 （安全性）	自己資本比率（%）	30%以上	97.0	○	96.7	○	▲ 0.3	補助金： 15,000,000	自己資本比率、流動比率及び固定比率のいずれも良好な水準にあり、財務基盤は概ね安定している。 収益面では、会員数の減少等に伴う会費収入及び事業収入の減少により、当期経常増減額は▲506千円となり、総資産経常利益率も▲0.7%となっている。 正味財産は減少しているものの、一定の現金預金及び積立資金を有していることから、直ちに経営上の問題が生じる状況ではないと考えられる。 営業活動CFは会員数等の減少によりマイナスに転じていることから、会員数の維持・確保、事業利用の促進及び支出の適正管理に努める必要がある。 【市が期待する役割等】 法人設立の目的や経営理念に基づき、石巻広域圏の中小企業勤労者とその家族及び事業主に対し、総合的な福祉事業を行い、生活の安定と健康の維持増進等を促進し、地域の労働環境の向上及び地域社会の活性化に寄与することを期待する。	無
					流動比率（%）	100%以上	1,185.8	○	1,106.3	○	▲ 79.5			
					固定比率（%）	100%以下	76.5	○	76.8	○	0.3			
				損益計算書 （収益性）	営業利益率（%）	5%以上	－	－	－	－	－			
					総資産経常利益率（%）	5%以上	0.8	×	▲ 0.7	×	▲ 1.5			
					総資産回転率（回）	1.0回以上	－	－	－	－	－			
				CF計算書 （資金の流れ）	営業活動CF（円）	プラス	997,403	○	▲ 50,710	×	▲ 1,048,113			
					投資活動CF（円）	－	▲ 139,668	－	▲ 115,110	－	24,558			
					財務活動CF（円）	－	0	－	0	－	0			
					分析パターン	－	－	※④健全型に近い	－	※⑧大幅見直し型 に近い	－			
6	株式会社 街づくりまんぼう	【法人概要】 中心市街地の活性化、観光交流、物販・喫茶、イベント運営等を通じ、まちなかのにぎわい創出に取り組む。 【事業内容】 ・石/森萬画館運営事業 ・街づくり事業等	石/森萬画館において常設展示のリニューアルや企画展、イベント等を実施し、有料観覧者数は前年度を上回った。 一方、全体の入館者数は、前年度比6,059人減の167,047人となった。 販売事業では、企画展やイベントに連動したグッズ販売、展望喫茶「ブルーゾーン」の利用促進等により、売上は増加した。 街づくり事業では、かわまちエリアの活性化、空き店舗活用、マンガロードの整備、中心市街地イベント支援等に取り組んだ。	貸借対照表 （安全性）	自己資本比率（%）	30%以上	76.8	○	72.7	○	▲ 4.1	補助金： 1,736,123 委託料： 76,587,000	自己資本比率、流動比率及び固定比率のいずれも良好な水準にあり、財務基盤は概ね安定している。 収益面では、物販・喫茶売上等の増加により、営業利益は28,216千円となり、前年度から大きく改善している。営業利益率は6.5%、総資産経常利益率は12.9%、総資産回転率は1.7回と良好な状況にある。 営業活動CFは54,919千円となり、前年度から大幅に改善しているほか、新たな借入れもないことから、資金繰りに直ちに問題はない。 今後も、集客促進と安定的な資金管理に努める必要がある。 【市が期待する役割等】 今後も企画展の充実や街なかの商店街等と協働したイベントの開催、積極的な情報発信により来街者の増加に努め、中心市街地全体に賑わいを創出し、地域の魅力向上に寄与することを期待する。	無
					流動比率（%）	100%以上	501.9	○	366.2	○	▲ 135.7			
					固定比率（%）	100%以下	35.7	○	31.3	○	▲ 4.4			
				損益計算書 （収益性）	営業利益率（%）	5%以上	3.1	×	6.5	○	3.4			
					総資産経常利益率（%）	5%以上	6.1	○	12.9	○	6.8			
					総資産回転率（回）	1.0回以上	1.7	○	1.7	○	0.0			
				CF計算書 （資金の流れ）	営業活動CF（円）	プラス	▲ 18,572,885	×	54,919,127	○	73,492,012			
					投資活動CF（円）	－	▲ 34,982,989	－	▲ 4,501,726	－	30,481,263			
					財務活動CF（円）	－	20,100,000	－	▲ 2,448,000	－	▲ 22,548,000			
					分析パターン	－	－	⑦勝負型	－	④健全型	－			

【令和７年度決算】第三セクター経営状況　概要資料

資料１－１

No.	法人名	法人概要等	R7事業実績	財務諸表			R6決算		R7決算		前期比	市による財政・金融支援（円）	財務状況の概要等	経営健全化の検討・方針策定の必要性
				項目	指標	理想値		判定		判定				
7	石巻産業創造 株式会社	【法人概要】 石巻トゥモロービジネスタウンに立地し、地域企業の支援、産業振興、創業・事業活動の促進に取り組む。 【事業内容】 ・テナント賃貸事業 ・経営相談会・セミナー等産業振興支援業務 ・６次産業化・地産地消推進センター運営業務等	賃貸事業収入及び石巻市・東松島市からの受託事業収入がいずれも前年度を上回り、総売上高は前年度比739千円増の83,357千円となった。当期利益は6,173千円を確保し、15期連続で黒字経営を維持している。 事業面では、創業開成塾、経営相談会、経営革新塾、6次産業化・地産地消推進センター運営業務等を通じ、創業者及び中小企業者への支援を継続した。 また、ルネッサンス館の老施設補修やテナント床張替えを実施し、今後の屋上防水改修に向けて修繕引当金を計上している。	貸借対照表 （安全性）	自己資本比率（%）	30%以上	97.4	○	96.8	○	▲ 0.6	委託料： 33,441,000	自己資本比率、流動比率及び固定比率のいずれも良好な水準にあり、財務基盤は概ね安定している。 収益面では、施設賃貸利用料原価の一時的な増加により営業利益率は4.1%となっているものの、賃貸事業収入及び受託事業収入は安定して推移しており、総売上高も前年度を上回っている。総資産経常利益率及び総資産回転率は低い水準にあるが、投資有価証券等の保有による影響が大きく、直ちに経営上の問題があるものではないと考えられる。 営業活動CFはプラスを維持し、投資活動CFも定期預金の払戻し等により収入超過であることから、資金繰りに大きな問題はないものと認められる。 【市が期待する役割等】 今後も、収入基盤であるテナント収入を核とした安定的な経営を図るとともに、市の委託業務に加え、独自有償事業や他機関との連携事業等を通じ、より一層の産業振興につながる事業展開に期待したい。	無
					流動比率（%）	100%以上	597.9	○	1,562.4	○	964.5			
					固定比率（%）	100%以下	95.2	○	82.7	○	▲ 12.5			
				損益計算書 （収益性）	営業利益率（%）	5%以上	6.4	○	4.1	×	▲ 2.3			
					総資産経常利益率（%）	5%以上	0.9	×	0.8	×	▲ 0.1			
					総資産回転率（回）	1.0回以上	0.1	×	0.1	×	0.0			
				CF計算書 （資金の流れ）	営業活動CF（円）	プラス	1,078,942	○	18,954,307	○	17,875,365			
					投資活動CF（円）	―	▲ 4,690,000	―	85,710,000	―	90,400,000			
					財務活動CF（円）	―	0	―	0	―	0			
					分析パターン	―	―	※④健全型に近い	―	※①安定型に近い	―			
8	網地島ライン 株式会社	【法人概要】 石巻市中心部と田代島・網地島・鮎川方面を結ぶ離島航路を運航し、住民生活や観光交通を支える。 【事業内容】 ・田代島、網地島の一般旅客定期航路事業（離島航路事業）	天候や観光需要の回復等により、旅客人員が前年度比13,438人増の109,866人となり、旅客運賃収入も増加した。 一方、自動車航送及び貨物運賃収入は微減となった。 収支面では、収益全体は前年度実績を上回った一方、燃油高騰や船舶の修繕費等の影響により、引き続き厳しい経営状況にある。最終的な損金は前年度から減少したものの、依然として赤字基調が続いている。	貸借対照表 （安全性）	自己資本比率（%）	30%以上	18.3	×	13.4	×	▲ 4.9	補助金： 91,905,906	自己資本比率は13.4%と前年度から低下しており、財務基盤の安定性には引き続き課題が認められる一方、流動比率は130.9%と前年度から改善しており、短期的な支払能力は一定程度確保されている。 収益面では、旅客人員及び旅客運賃収入は増加したものの、営業利益率は▲186.1%と大幅なマイナスが続いており、離島航路事業の性質上、国・県・市の補助等により運航を維持している状況であることから、引き続き輸送人員及び運賃収入の確保、経費抑制に努める必要がある。 各CFはプラスだが、未払金や借入金の増加等の将来負担を踏まえた計画的な資金管理に努める必要がある。 【市が期待する役割等】 今後、新造船の償還に伴う多額の経費など欠損額の増加が見込まれることから、旅客運賃収入の増加や燃料・光熱水費の削減等により収益性の改善を図りつつ、離島航路の安定的な維持に努める必要がある。	無
					流動比率（%）	100%以上	122.0	○	130.9	○	8.9			
					固定比率（%）	100%以下	168.6	×	116.9	×	▲ 51.7			
				損益計算書 （収益性）	営業利益率（%）	5%以上	▲ 217.5	×	▲ 186.1	×	31.4			
					総資産経常利益率（%）	5%以上	0.0	×	8.2	○	8.2			
					総資産回転率（回）	1.0回以上	0.3	×	0.3	×	0.0			
				CF計算書 （資金の流れ）	営業活動CF（円）	プラス	7,108,121	○	47,521,180	○	40,413,059			
					投資活動CF（円）	―	▲ 1,388,563	―	36,348,432	―	37,736,995			
					財務活動CF（円）	―	2,072,000	―	23,072,000	―	21,000,000			
					分析パターン	―	―	③積極型	―	①安定型	―			